青木村議会だより

Vol.96
令和７年２月１日発行

CONTENTS

令和６年 第４回 定例会 … 2～3
一般質問 … 4～11
議会の動き … 12～15
議会日誌・住民の声 … 16

青木中学校 3年生　議会見学

gikai@vill.aoki.nagano.jp
http://www.vill.aoki.nagano.jp/gikai03.html

令和6年 第4回定例会

令和6年第4回定例会は、去る12月5日に招集され12日までの会期で行われました。提出された案件は報告事項1件、条例改正3件、補正予算1件で、慎重審議の結果、原案のとおり承認、可決、採択されました。

一般質問では、8人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ（要旨）

私事でありますが、病気療養のため長期にわたり、多くの皆様にご迷惑をおかけしましたこと、心からお詫び申し上げます。おかげさまで日常生活に支障が無い程に回復をしております。

今年も残すところあとわずかとなりました。青木村では夏の長雨が幸いし、特産品であります松茸が空前の大豊作となりました。シーズン中、道の駅あおきの販売数は6千パック以上に達し、連日大変な賑わいでした。もうひとつの特産品タチアカネ蕎麦は、残念ながらこの天候が災いし、昨年の4割にも満たない収穫量となってしまいました。

10月28日に実施された衆議院選挙では、派閥の裏金事件などで厳しい審判が下り、自民と公明の与党が15年ぶりに過半数を割り込みました。新しい国会には、目の前の暮らしへの対応等と、未来を見据えたしっかりした戦略を持った政策に向けての熟議の実現を要請します。

世界的な地政学リスクや気候変動、災害の頻発などが、私たちの生活に及ぼす影響も大きく、自分たちの自治体の課題は何か、保有している資源は何か、それを活用して財源にできないか良く考えていく必要があります。

国の令和7年度予算は「経済財政運営と改革の基本方針2024」に基づき、経済・財政一体改革を推進する。ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない。歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化する、としております。

県の予算編成方針のポイントは、重点項目として、①人口問題への対応、②ゼロカーボンの加速化、③地震防災対策の抜本的な強化等が挙げられております。行財政改革の取組みの中で、公共事業などは「造る」から「直す」ことを重点化するとしております。

青木村でもこれから、来年度の予算編成作業に入ります。村民の皆さんが将来に夢を持てる先々を見通した施策を行うため、スピード感を持って、年々増える社会保障費への対応を図りながら、単に金額だけでなく内容が充実した予算編成を行い、元気で豊かな村づくり、日本一住み続けたい村づくりに取り組んでまいります。

9月定例議会からの村内の動きとしては、9月18日に高齢者祝賀事業による訪問を行いました。9月から10月にかけて中学校のこまゆみ祭、保育園の運動会、小学校の音楽会が行われました。11月5日、6日には、小学校6年生の東京への修学旅行が行われました。11月16日、17日に青木村産業祭、タチアカネ新そばまつりが、天候にも恵まれ盛大に開催されました。

令和6年10月専決補正予算について、自治体システム標準化に伴う電算機器設定委託料が、令和7年度に渡って年度をまたぐ契約となったため、債務負担行為の補正をさせていただきました。

令和6年12月補正予算について歳入歳出それぞれ3679万円を追加し、総額を44億2589万円とします。歳入では前年度繰越金や衆議院選挙執行委託金が増額されております。歳出では入奈良本牧場支障木処理、情報通信サービス高機能化促進事業、中学校教師用指導書などを予算計上しております。

結びに、私事でございますが、来年4月に予定されております村長選挙について、立候補させていただきたく決意を固めたところであります。

報告事項

報告第1号
専決処分の承認を求めることについて

○令和6年度青木村一般会計補正予算（第3号）

予算済額1599万4千円を債務負担行為とするもので、自治体システム標準化に伴う事業を2ケ年度で行うものです。

議案

議案第1号
青木村議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について

青木村議会議員（議長、副議長、委員長、議員）の議員報酬月額を増額に改正するものです。

賛成討論　宮下壽章 議員

議案第2号
刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について

法律の改正に伴い、刑罰の懲役及び禁錮が廃止され、拘禁刑が創設されたことによる対象字句等の改正を行うものです。

議案第3号
青木村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

県規則の改正に伴い、保育園の保育士・保育従事者の配置基準を見直し、園児数に対する保育士等の配置最低基準の改正を行うものです。

議案第4号
令和6年度 青木村一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ3679万円を追加し総額を44億2589万円とするものです。歳入では衆議院選挙執行委託金560万7千円、前年度繰越金2034万3千円、上田広域ふるさと基金出資金返還金252万4千円の増が主なもので、歳出では地域防災計画更新委託料273万9千円、高機能化促進事業関連（庁舎内ビジネスフォン連携調査）委託料390万5千円、衆議院議員選挙費669万円、入奈良本牧場支障木処理、農地整備委託料427万8千円、国道歩道工事村有建物移転工事600万円の増などが主なものです。

青木村議会日誌

11月
1日～2日／青木村及び上田市共有財産組合議会視察研修（共有財産組合議会）
6日／タチアカネ新そば奉納祭（議長）
7日／佐賀県基山町議会行政視察来村（議長）
13日／町村議会議長全国大会（議長）
22日／全員協議会
28日／例月監査（監査委員）
29日／議会運営委員会（議会運営委員）

12月
5日／議会開会
10日／議会一般質問
12日／議会審議採決
12日／全員協議会
12日／議会報編集委員会（議会報編集委員）
20日／商工懇談会（正副議長、総務建設産業委員）
26日／例月監査（監査委員）

1月
2日／成人式（正副議長、社会文教委員）
12日／出初式（正副議長、総務建設産業委員）
10日／議会報編集委員会（議会報編集委員）
11日／豊受皇大神宮例大祭並びに交通安全祈願祭（議長）
15日／全員協議会
15日／議会運営委員会（議会運営委員）
17日／議会報編集委員会（議会報編集委員）
27日／全員協議会
27日／上田地域市町村議会議員研修会・全員協議会
28日／例月監査（監査委員）
29日／上田地域広域連合議会代表者会（議長）

2月
今後の予定
3日／節分祭（議長）
7日／上田地域広域連合議会（正副議長）
15日／住民懇談会（文化会館）
15日／住民懇談会（下奈良本ふれあいセンター滝の館）
19日／県議長会第40回定期総会（議長）
21日／住民懇談会（当郷公民館）
21日／住民懇談会（アイリスの館）
21日／住民懇談会（夫神公民館）
22日／住民懇談会（殿戸区コミュニティセンター）
25日／住民懇談会（義民の郷ふれあいセンター）

議案の議決結果

○賛成　●反対

報告・議案		松本	塩澤	平林	宮入	坂井	松澤	金井	宮下	沓掛	居鶴	結果
報告第1号	専決処分の承認を求めることについて	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	承認（全員一致）
議案第1号	青木村議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決（全員一致）
議案第2号	刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決（全員一致）
議案第3号	青木村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決（全員一致）
議案第4号	令和6年度　青木村一般会計補正予算について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決（全員一致）

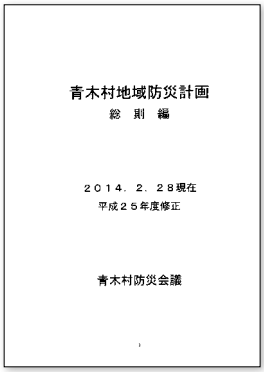
※議長は採決に加わりません。

安心安全な村づくり

居鶴 貞美 議員

1、現村長、北村政夫氏の続投について
2、アダプト制度の導入について
3、防犯対策について
4、災害対策について

村営バスにドライブレコーダーを



災害対策基本法

1 現村長、北村政夫氏の続投について

問 先の信毎報道、及び、開会日冒頭の挨拶で出馬表明された。どのようなバックボーン的な考えで青木村を担ってきたか。

村長答弁

「元気で豊かな青木村」そして、青木村が「もっと輝き日本一住みたい村」への目標に沿って村民の皆さんが自らの故郷に誇りを持てる村づくりを心がけてきた。

問 四期目はどのような施策を中心に進められるのか。

村長答弁

次期の村長を付託させて頂ければ、①健康で元気な村づくり ②活力に満ちた村づくり ③人と文化を育む村づくり ④安全、安心な村づくり ⑤自主自立をした村づくり、このような事を中心に実施していきたい。

心強い決意表明をされました。健康に気を付けて更なる青木村の発展を期待します。

2 アダプト制度の導入は

問 この制度は住民が道路など公用スペースを清掃美化活動することであるが村の考えはどうか。

建設農林課長答弁

道路愛護に関する取り組みの考えでは人口減少や高齢化など社会情勢を踏まえると重要な観点と認識しており、他市町村の導入状況を研究していく。

3 防犯対策について

問 闇バイト、不審な業者の訪問等で安全な生活が脅かされ犯罪が発生している。抑止力強化と犯罪発生時の事件解決に防犯カメラを国道143号に設置はどうか。

総務企画課長答弁

道の駅に4台増設した。国県への設置許可の手続き、プライバシーへの配慮等必要になる。今後は、国道を往来する車、人の往来も増えてくる。警察に設置依頼を行うなど効果的な場所を選定して、設置を検討していく。

問 村営バスのフロントとテールにドライブレコーダーの設置とカメラ撮影運行中の表示貼り付けについて。

総務企画課長答弁

今年度の予算の中で対応できれば行う。

村長答弁

運転手とのヒアリングでも必要性を承知している。なるべく早く設置を考えていく。

4 災害対策について

問 ① 避難所における村内有資格者のボランティア事前委託登録の状況はどうか。
② 油圧ショベル、ホイルローダー、アマチュア無線等の免許取得状況はどうか。
③ 小中学校の登下校時の災害発生時における危険度調査の実施状況はどうか。

防災危機管理監答弁

① 現在は行っていないが非常に重要と認識している。他の先進事例も参考にして社会福祉協議会を中心に検討していく。
② 職員で大型特殊等の免許取得者がいる。様々な関係団体と災害時援助協定を締結しており協力依頼をしていく。防災士の資格は来年度一名の職員が資格取得を目指している。

教育長答弁

③ 危険個所の調査は、毎年小中学生の合同下校の時に各班ごとに通学路危険個所確認をしてもらい、冊子を作成して関係者が集まって検討会を行っている。

包括的性教育の推進を

塩澤 敏樹 議員

1、人権教育・人権啓発施策について
2、中学校部活動の地域クラブ移行について

県で出している性に関する指導の手引き

中学校２年生人権教育のまとめ一部

1 多文化共生社会の推進について

(問) 村づくりにおける多文化共生社会の展開は。

村長答弁

今後さらに外国人の方が増えてくることが予想されるので、地域あるいは行政等が一体となって、地域コミュニティへの参加を推進するなど、多文化共生を進める。あるいはこういったことを排除しない村づくりに取り組んでいく。

(問) 人権施策推進の基礎資料として、部落問題をはじめとする、様々な人権問題に関する意識調査を。

住民福祉課答弁

同和問題に限らず、多様な人権問題に関する意識調査は必要なので今後考えていきたい。

(問) セクシャルマイノリティーに対する理解を深めるために、どの様な啓発活動を行っているのか。

教育長答弁

実際に青木村ではどのくらいのセクシャルマイノリティーの児童生徒がいるのか調査していない。小学校では、人権教育の中で、個性の尊重の項目として道徳の授業を中心に扱っている。相談は養護教諭やスクールカウンセラーが対応している。中学校では多様性について考える機会を設けてきた。人権講演会でも「多様性について考える LGBTQの視点から」という題で行い、多様性について考えを深めた。

相談先は、年度当初に相談先を紹介、また、生徒手帳にも掲載している。直接相談できるリンクというホームがあり、あらゆる場を通じて子どもたちの相談に乗ろうと考えている。

(問) 親へのセクシャルマイノリティーの理解を深める啓発活動は。

教育長答弁

小学校では保健だより等で知らせている。中学校では講演会に保護者も同席して、同じ目線で考えるようにしている。

(問) 性交を扱わないはどめ教育の中で、性暴力や性被害がどようなものかを、子どもたちに理解させるには。

「生命(いのち)の安全教育」の中で性の科学的な知識だけでなく、ジェンダー、多様性、出産や育児、恋愛や人に関する社会の問題など、包括的性教育の推進を。

教育長答弁

生徒の発達段階、学校全体の共通理解、保護者や地域の理解、集団指導と個別指導の区別を行うなどの配慮が必要となる。

(問) 信州昆虫資料館にバリアフリートイレの設置を。

商工観光移住課長答弁

昆虫資料館自体の施設が老朽化が進んでおり、総合的に判断させていただきたい。

2 中学校部活動の地域クラブ移行について

(問) 地域クラブ移行についてこれまでの取り組みは。

教育長答弁

バレーボールの地域化を図ろうと考え、まず来年度は休日のバレーボールの部活動の地域移行を考えている。

(問) これからの部活動は、学校教育の一環なのか、社会教育の一環へ変わっていくのか。青木村の実情に合った方向性を。

教育長答弁

学校教育から社会教育としての地域スポーツクラブへの移行が流れ。大きな都市や市では様々なスポーツクラブがあるが、青木村はスポーツの種類もクラブのある場所までの距離も選択できる状況ではない。現状では学校教育として先生方に協力していただき、可能なところから地域移行を実施していくと考えている。

大切なのは子どもたちの意欲やスポーツをしたいという気持ちが途切れないようにしていくことをまず最も大事に考えていく。

地域で暮らし稼げる農業めざして

平林 幸一 議員

1、中山間地域の持続可能な農業について

そば畑

ワイン用ブドウ

弘法地区の荒廃農地

大型機械作業が可能となる
農地基盤整備事業で
荒廃農地を再生

1 中山間地域の持続可能な農業について

（問）①青木村の農地全体と中山間地域の遊休農地の現状は。②目標地図素案作成の進捗は。③農地利用意向に関するアンケート調査の結果は。④中山間地域の目標地図素案作成に対する理解度は。⑤本村の中山間地域の農業の位置づけは。⑥中山間地域の現状の施策は。⑦農地基盤整備事業の取組の推進について ⑧農業が抱える問題と対応は。⑨公社や生産法人の設立等の支援の考えは。

建設農林課長答弁

①遊休農地率は29・5％。不成形で農作業機械の出入りが困難な農地は、貸付けや売払いを希望しても、受け手が見つからない。山間地の畑を中心に遊休農地の増加が懸念される。水田の多くは受託組織や代行担い手農家による省力作物のソバタチアカネを栽培。畑地は、村外の農業法人がソバ栽培で有効活用している。

②圃場ごとに10年後の耕作者を指定した目標地図は令和6年7月31日開催の村農業再生協議会で承認され来年3月末迄に、策定完了予定。

③売りたい、貸したいという方が90人、担い手農業者14人、規模縮小をしたい方257人、合計361人が回答。❶高齢化により農業継続に不安 ❷後継者不足 ❸野生鳥獣被害の拡大。

④地域の農業者様には、広報誌やHPの掲載、今年始めに説明会を開催し理解に努める。

⑤林野率が約8割、耕地率が約8％。全村が中山間地域。耕地率が低く傾斜地が多い等、経営規模が零細で生産力が低いが、地球温暖化が進むと標高の低い農地で生産しづらくなり、標高の高い中山間農地が生産の適地になると考える、今後も維持保全していく。

⑥水稲や転作ソバ、大豆、麦の土地利用型農業を支援する大型機械の導入補助、また、排水対策や水田活用交付金継続の5年水張対応の支援。国・県・村を合わせ事業費の4分の3を交付の中山間地域直接支払交付金事業21集落、多面的機能支払交付金事業6組織、環境保全型農業支払交付金事業1組織が取組んでいる。又村単補助事業として、堆肥活用事業補助金、遊休荒廃農地対策事業等取組んでいる。

⑦担い手農家や地権者、地区等からの要望を十分に聞き、村単農地土地改良補助事業や国・県の補助事業の活用が考えられる。が地元負担金等を伴いハードルが高い。下奈良本原地籍で大型機械の出入り可能な農道拡幅要望を受けて、農地を取得せず、地権者の了解で、拡幅できた簡易的な取組を参考にされたい。新トンネル掘削土利活用について、県では搬出先含めて検討している。近々に明らかになる。引続き情報収集し検討進める。

村長答弁

⑧担い手農家等の経営確立、担い手農家が借り易い、また請け負い易い体制が大切。新規農業者、定年帰農者、移住し農地取得の方等、多様な人材確保に努める。地域の豊かな資源を活かした6次産業の展開、都市と農村との交流促進、鳥獣被害対策や地球温暖化にも対応した多種多様な特産品作り等に、総合的に取組む。

⑨農業複合拠点の整備は既存の農業法人や加工販売等の経営体と、村農業支援センター及び道の駅あおきとの関係など、新たな取組や研究課題がある。働く人がいれば、提案の構想も実現すると考える。

おきネットワーク活用拡大を！

松本 淳英 議員

1、青木村の情報発信について
2、観光促進について

❶ 新テレビサービス

❷ 新情報電話サービス（あおき電話）

❸ スマートフォンアプリ（あおきナビ）

あおきネットワーク３つのサービス

1 「あおきネットワーク」で便利な生活を！

問 新情報通信ネットワーク事業「あおきネットワーク」においてどのようなサービスが提供可能か。準備の状況は。

事業推進室長答弁

青木診療所と、あおき電話を活用しオンライン診療、オンラインによる薬の処方について調整をしている。村内の薬局の御協力があれば、薬を自宅まで届けることもできる。

村営バスの予約、見守りサービスなども検討している。

問 ＬＩＮＥにて行政情報を発信、行政サービスの案内、住民票の発行、住民からの情報収集などを行う自治体が増えている。青木村は。

事業推進室長答弁

あおきネットワークとＬＩＮＥの情報連携は技術的には可能。しかしセキュリティー等の問題もあり、将来の検討課題としたい。

問 災害時に停電になると使えなくなる情報端末が多い。村内の避難所における非常用電源の配備は。

防災危機管理監答弁

11月27日の区長会において、各地区の公民館等の非常用発電機の状況調査を依頼した。

その結果を踏まえ今後の避難所運営の改善に役立てていきたい。

問 非常用電源として活用できる電気自動車等の配備状況は。

総務企画課長答弁

電源として活用できる電気自動車は3台ある。日産自動車とは災害時における電気自動車の貸借契約を結んでいる。

問 村民のニーズが強い屋外拡声器の配備については。

事業推進室長答弁

青木村は谷合に集落があるため音が反響して聞こえにくい、一方的な伝達になってしまい村民の方が聞いたか確認できない、音が大き過ぎるため非常時にしか利用できない等の理由で今回導入を見送った。

2 村内サービス業の健全発展のために観光促進を！

問 長野県が導入を予定している（仮）宿泊税について、当村での活用方法は。

村長答弁

交通インフラの整備、情報発信のツール、田沢・沓掛温泉の魅力アップ事業など村民の意見を反映して活用したい。

問 急増する外国人訪日客に対応するための多言語化は。

商工観光移住課長答弁

スマホを用いた多言語による情報受発信について、導入を検討しており、一部観光地において来春の導入を見込んでいる。

問 道の駅あおきにおけるオンライン販売、Ｅバイク導入は。

商工観光移住課長答弁

11月にオンラインショッピングが開始した。商品の構成、充実を含め、今後も消費者ニーズに応えられるよう取り組んでいきたい。

Ｅバイクレンタルサイクルについては、コースの中にポイントを設定し、周遊意欲を沸き立てたり、旅館組合や近隣市町村と連携し、広域的な周遊イベントを企画するなど事業の拡大を今後図っていきたい。

青木峠新トンネル早期開通を

沓掛　計三　議員

1、国道143号青木峠新トンネル事業の進捗状況について

2、青木村の今後について

ふるさと公園に青木峠新トンネルの早期開通を願って立てられた看板

1　国道143号青木峠新トンネル事業進捗状況について

（問） この事業は、村にとって将来の必要性から沿線住民の強い要望により事業着手の予算が付き4年ほどになるが、地権者の同意が得られないためか、未だ本着工できないでいる。この状況では住民の強い要望が疑問視され、「また駄目になり白紙撤回されないか。」との悲観的な声も聞かれる。現在の進捗状況は。

村長答弁　県の予算確保は、本年度までに12億8千万円と伺っている。また、国でも事業視察等し、トンネルの必要性を認識していると思う。しかし、いきなり本工事ではなく付帯関連工事など出来る箇所から進めていくようお願いしている。

建設農林課長答弁　青木村側では、道路及びトンネルの詳細設計、用地測量用地買収を進めるとともに、工事発生土の活用に向け調査検討をしている。用地交渉の状況は、付帯村道工事の用地交渉を進めている。既に契約し支払済みの方もいる。今後も、村は県と協力し地権者のご理解を得て早期着工を関係者に働きかけていく。

（問） 早期着工に向け松本市・筑北村側からの着工は。また、工事が進まない問題について。

村長答弁　事業予算は国から県へ一括してきているので出来るところからと承知している。用地買収では、相続等諸問題もあり時間がかかっている。

（問） 松本市側には信大付属病院等医療機関が充実している。現在の三才山ルートでは交通が不便である。青木峠新トンネルの必要性を理解していただき早期の開通をお願いする。

村長答弁　三才山トンネルの前後は毎年修繕工事等により通行者に不便をかけている。また、村内からも信大病院への通院者も多い。経済や観光のみでなく、命をつなぐ道として国県へ早期開通を強く要望していく。

2　青木村の今後について

（問） 北村村長は今議会冒頭で「来期も続投したい。」との表明があり、私も今までの村長の行財政運営で継続性のある大きな事業を進めており、確実な目途をつけるためにも続投をと思う。3期12年の自己評価と今後村が自立していく為の行財政運営について。

村長答弁　自己評価について、村民の評価は解らないが、精一杯やってきた。合格点をいただけるか心配である。行政運営については、限りある財源や人材を活用し、効率的な行政運営が求められる。財政運営は、交付税や有利な村債・企業誘致等財源確保をし、経常経費縮減に取り組む。今後は、自然災害や社会保障・公共施設の老朽化等歳出の増加も予想される。この課題の対応は、安定した財源確保や費用対効果の高い効率的な予算執行が必要である。

（問） 地方自治体の長の仕事は、人口規模の大小に関わらず重い任務である。地方自治法に従い副村長が必要ではないか。

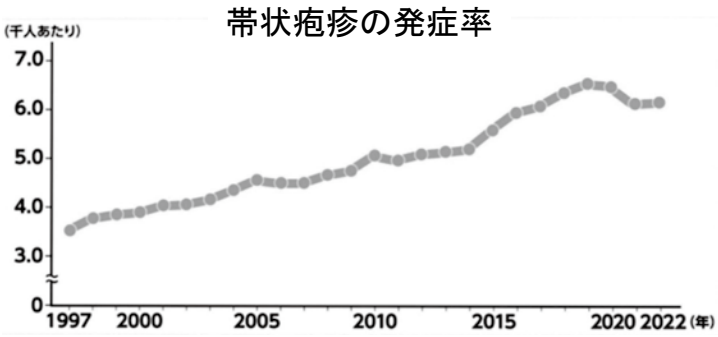
村長答弁　行政事務が増大する中、私も副村長がいればと思ったことは、様々な面で何回もあった。しかし、私は埼玉県などで副市長など経験し、その必要性や置かないでやっていける両方を承知している。国、県はもとより、村行政が多様化しても住民サービス提供に不足があってはならない。村民にも副村長の必要性を感じている方がいると思うが、この問題は、新村長の下、皆さんの意見を伺いながらの判断に委ねられると思う。

帯状疱疹ワクチン助成予算化検討

坂井 弘 議員

1、多発する高齢者を標的にした犯罪から村民を守るために
2、管理者不在の空家・宅地の整備
3、障がい者の医療費窓口無料化ならびに帯状疱疹ワクチン接種の助成

帯状疱疹ワクチン接種の補助を早急に



大規模疫学調査「宮崎スタディ」より NHK クローズアップ現代 作成

1 ご近所パートナーで犯罪抑止の取り組みを

(問) 村内の犯罪の発生状況は。

総務企画課長答弁
令和6年の犯罪認知件数は空き巣1件、倉庫荒らし1件、万引き2件、住居侵入1件、その他1件の計6件だった。

(問) 警備会社のセキュリティ費用や二重鍵の設置費用を村で助成する考えは。

総務企画課長答弁
今後の検討課題としたい。

(問) 地域支え合いの会やつながるつどいの取り組みを強め、犯罪抑止に繋げるとともに、ご近所パートナーシステムを構築し、声がけし合うようにしてはどうか。

総務企画課長答弁
地域ぐるみで議論する必要がある。区長会で呼びかける。

2 空家の環境整備を村主導で積極的に

(問) 管理者不在の空家・宅地の実情、整備状況は。

商工観光移住課長答弁
管理者と連絡が取れない空家はない。整備については、地域の皆さんにお願いしているところが大きい。

(問) 地域力によらず、村としてどのように対処しようとしているか。昨年4月から制度化された土地建物に特化した二つの財産管理制度を活用することはできないか。

商工観光移住課長答弁
空家対策協議会を必要に応じ早急に設置する。固定資産税納税通知書に、空家の活用、悪化防止、除却を勧めるチラシを作成し同封する。

3 人にやさしい村づくりを前へ

(問) 障害者医療費が、窓口無料化にならない理由は何か。

住民福祉課長答弁
電算システム構築に、300～400万円かかるとともに、国保ペナルティ10万円程が減額される。窓口無料化すると患者が医療機関にかかりやすくなり医療費が増加する。

(問) 患者を切り捨てるこんな酷い話はない。村が先陣を切り、障がい者を大事にする村として姿勢を示すべきだ。

村長答弁
人に優しい村づくりの中では、考えていかなければならない課題だと思う。

(問) 村内の帯状疱疹の罹患状況はどうか。

住民福祉課長答弁
青木診療所を受診した方は、令和5年度21名、6年度15名だった。予想外に多い。

(問) 85歳の人の約50%が帯状疱疹の罹患歴を有し、80歳までに三人に一人が経験すると推計されている。村の人口からすれば、年間26人が罹患することになる。この一年間でワクチン接種の助成を始めた県内の自治体はかなりの数に上る。実施状況はどうか。

住民福祉課長答弁
帯状疱疹ワクチン接種の助成をしている市町村は21市町村。うち15市町村が令和6年度になって開始した。

(問) 国の定期接種化に向けた動きは。

住民福祉課長答弁
本年6月に定期接種化について妥当という方向性が示され、審議が継続されている。

(問) 青木村としてはどのような制度化を図るのか。

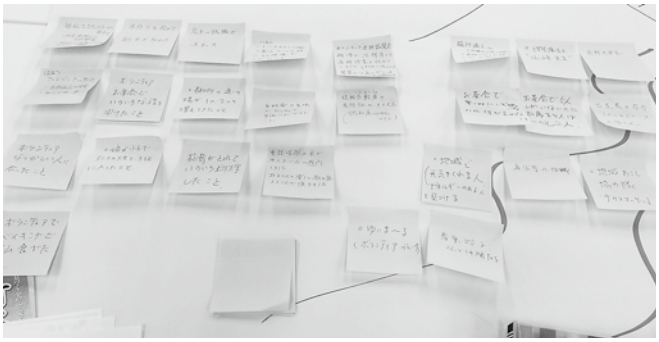
村長答弁
定期接種化が決まれば、できるだけ早急に助成制度について考える。

住民福祉課長答弁
65歳以上5歳刻みという国の制度をそのまま村で行うということではなく、他市町村の状況等を勘案し村としての制度を構築していく。

ボランティアで支え愛

金井 とも子 議員

1、ボランティアの会について
2、青木村と東急グループについて



12月1日　ボランティアフォーラム in あおきで

入館者を待つ五島慶太未来創造館

1 ボランティアの会の活動は

（問） 青木村ボランティアの会の終了の経緯、理由などは。

住民福祉課長答弁

33年間事業に御協力いただき感謝している。ここ数年はコロナ禍により活動に制限があり、会員数の減少と高齢化等により会の存続が難しくなり、令和6年3月15日の総会で解散を決議した。

（問） 青木村ボランティアの会より青木村善意銀行に寄附があった。この善意銀行とは。

住民福祉課長答弁

善意銀行は平成22年に村内の企業からの寄附金を原資としてスタートし、その後匿名の個人や企業、団体等からの寄附金で運営し、青木村社会福祉協議会の理事及び評議員の代表による運営委員会により活用方法等を決定し、広く社会福祉の増進に役立てている。

（問） 新しい組織で活動を始めたが、その経緯と現在の活動状況は。

住民福祉課長答弁

令和6年4月ボランティアに関心がある方でボランティアグループあおきを立ち上げて活動を開始した。フードバンク事業の受入れ処理などの活動を行っている。

（問） ボランティア活動の近い未来に向けての展望をどのように考えているか。

村長答弁

長い間活動した旧ボランティアの会の荒川会長以下の皆様には御慰労と感謝を申し上げる。新たなボランティア活動の設立の趣旨を尊重し社会福祉協議会等と連携し支援していきたい。

2 東急グループとの関係に期待

（問） 五島慶太未来創造館の来場者の状況などは。

教育長答弁

令和2年の開館から今年10月末までに2万5447人の来館があった。うち子どもたちが3028人。東急の関係者は1497人（記入した方のみなので実数はかなり多いと思われる）。慶太塾に参加の方も今後、増加が見込まれる。

（問） 開催の企画展とその検証の結果はいかがか。

教育長答弁

令和3年3月からこれまでに10回の企画展を開催した。体験型、参加型のイベントを増やしていきたい。

（問） 東京の五島美術館には国宝級の美術品が所蔵されている、交流や連携は。

教育長答弁

五島美術館は、国宝や重要文化財級の貴重な資料なので、美術品を借りて展示することは難しい。美術資料を借りる以外の方法で連携を行っている。

（問） 東急グループの研修施設の村への効果は。一般の見学は可能か。

事業推進室長答弁

一般社団法人東急グループ慶太塾という法人が設立され管理運営されている。

今年度は、部長クラスの研修が全3回実施、来年度も15回の研修がある予定。

一般の見学は、毎月第4土曜日に予約制で見学ができる。

（問） 今後の連携は。

村長答弁

五島慶太翁の顕彰活動が短期間で大変大きく盛り上がり定着していることに関係の皆様に感謝を申し上げる。翁の顕彰活動は東急関係者の非常に熱い思いにより青木村との関係を構築されている。今後も東急グループ等関係団体と連携し、地域づくりに必要な、青木村が不足している部分の人材、情報、経験などを補う連携事業を進めていきたい。

環境を活かした脱炭素化を

宮入 隆通 議員

1、青木村の脱炭素に向けた対策について

この環境が脱炭素ではあるが活かしきれていないのではないか

1 青木村の山は脱炭素そのものだ

問 今までの対策は。

村長答弁
省エネルギー化、CO_2の削減、環境保全、防災・減災など、村民の協力の下でたくさんの対策事業を行ってきた。

問 村内企業、村民など地域の関係者が主役になって今ある技術を使い、再エネ等の地域資源を最大限活用することで脱炭素化を実現する、『地域脱炭素』についてどう考えるか。

総務企画課長答弁
全国では、上田市も含めて70を超える地域が先行地域として取り組んでいるが、地域住民や地域企業等の理解醸成が不足しているなど、多くの課題も指摘されており、慎重に取り組んでいく必要があると考えている。

問 地域脱炭素関連の交付金の利用状況は。

総務企画課長答弁
本村は脱炭素先行地域に選定されていないため交付金利用はしていない。

問 地域脱炭素に向けた地方公共団体実行計画の策定状況は。

住民福祉課長答弁
青木村地球温暖化対策実行計画（事務事業編）については、令和5年3月に策定済み。

問 自然エネルギーの活用状況は。

総務企画課長答弁
村の住宅太陽光パネルの設置補助の申請件数が11月末までで173件。個人や企業が設置している野立ての太陽光発電施設は12施設、12件。面積は5万879㎡。公共施設では屋根貸しで太陽光パネルを設置している。また工場の屋根に設置した太陽光パネルもあり、活用されている。

問 企業と連携してCO_2削減していく考えは。

総務企画課長答弁
企業とマッチングできれば前向きに検討したい。

問 路線バスダイヤが減る社会的な問題と二酸化炭素の排出削減のため地域交通利用を必要とする企業が出てくる問題があるが、村としての考えは。

総務企画課長答弁
排出ガスの削減や渋滞の緩和が期待でき、路線の維持につながるので動きがあれば企業とバス会社に村としてもお願いしたい。

問 青木村の森林を活用してJ-クレジットによる森林整備を行う可能性は。

建設農林課長答弁
J-クレジット制度は、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO_2等の排出削減量や適切な森林管理によるCO_2等の吸収量をクレジットとして国が認証する制度で、認定を受けた吸収量は排出削減に取り組む企業に販売が可能。このJ-クレジット制度を導入することにより、新たな森林整備に活用可能であるが、販売収入を得るまでに年数を要するなどの課題もあることから、先行している上田市の取組状況を注視し、情報収集しながら研究していく。

問 2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けてどう行動するか。

村長答弁
今は次世代太陽電池のペロブスカイトの開発に注目している。村民にも協力してもらい、二酸化炭素排出実質ゼロに向けた事業に積極的に取り組んでいきたい。

あの会議の動き

上田地域広域連合議会定例会について

令和6年10月22日（火）から24日（木）まで丸子自治センターにおいて、令和6年10月定例会が開催されました。開会のあいさつで土屋陽一連合長から、最重要課題である資源循環型施設建設について4つある手続きのうち3つ目の準備書の手続きにおいて地元自治会を含めた全7回の住民説明会を開催し、資源循環型施設が、安全・安心な施設であることを説明してきた。4つ目の評価書の手続きに対して県知事の意見をもとに修正を行い、令和7年1月ごろの完了を目指している。既存施設の老朽化による故障リスクの高まりや修繕費の高騰化など施設の早期建設に向けても、建設地としての決定に向けて取り組んでいく。地域医療対策については、地域医療を取り巻く情勢は当圏域の慢性的な医療従事者不足や医師の高齢化、医師の働き方改革の影響もあり救急医療体制の維持が大変厳しい状況だ。地域住民の安全で安心な暮らしを守るために輪番制を含めた救急医療体制の見直しが急務である。今後も病院間の連携・つながりをさらに深め、当圏域の特徴を活かした、新たな「上田スタイル」として二次救急医療体制の再構築に向け取り組んでいく。ほかに、上田・丸子・東部クリーンセンター、斎場について、上田創造館、広域消防等々について話がありました。

提案された議案は条例1件、決算認定4件、予算案3件、報告1件の9件で、令和5年度一般会計・特別会計の決算額は、歳入合計55億5千3百21万円余、歳出合計51億2千9百60万円余で実質収支は3億1千84万円余の黒字決算となりました。令和6年度10月補正予算については、上田地域広域連合老人福祉基金条例の廃止に伴う4地町村への交付金、大星斎場の施設修繕、介護保険特別会計に伴うシステムの改修費など補正後の予算総額は、一般会計・特別会計の合計で57億3765万円余となりました。提出された案件は各常任委員会において審議され本会議にて承認されました。

ほか3名による一般質問がありました。

（松澤正登）

筑北村・青木村議会議員懇談会

令和6年10月25日、筑北村との議会議員懇談会が開かれました。本年は筑北村議員が青木村を訪れ、当村において来年度より導入される情報通信ネットワーク等高機能化促進事業の説明を受けるとともに、五島慶太生家の見学をしました。

あおきネットワークについては、「誰一人取り残されない、平等できめ細やかな、災害等に強い新しい情報通信サービスの構築」を目指し、情報電話導入の歴史的背景、屋外放送が難しい当村の地理的特性を踏まえ、既存の光ファイバー網を活用した新情報端末、村営テレビ、携帯アプリの導入等に至った経緯の説明がされました。

筑北村においても同様なサービスの更新をしており、村民全員への情報提供、災害発生時における安定運用、財源など共通する問題について意見交換が行われました。

五島慶太生家については、慶太翁の記録と記憶を当村に残すべく生家の再建に至った経緯や、生家で使われていた古材をできる限り活用するために大変な苦労があったことが説明されました。

東急グループ幹部の研修所として

して使用されている慶太翁が過ごした地を訪れることで、慶太翁の実績がいかに偉大であったこと、また地域発展においても人の活躍がいかに重要であるかということを改めて認識させられました。

（松本淳英）

青木村及び上田市共有財産組合議会視察研修

令和6年10月31日から11月2日まで青木村及び上田市共有財産組合議会議員等の視察研修を行いました。

最初に、愛媛県にある久万高原町（くまこうげんちょう）を視察しました。

久万高原町は、明治5年に吉野から来た「井部栄範」が久万林業の基礎を築き、民有林素材生産量は約20万m^3、愛媛県の4割を占める全国有数の林業地域となりました。

人口は8650人、森林面積5万8369haで森林率は90％です。

久万高原町の森林林業は林業DX（デジタルフォーメーション）を導入して取り組んでいることが特徴となっています。これは、3次元森林解析システム（アシストゼット）を使用し、地形を立体的に見ることができ、地番境界がリアルに表示できるとともに、作業道のシミュレーションが可能になります。また、3次元森林計測システム（アウレ）も使って、地上レーザーを使用し位置情報を取得して、専用ソフトで解析することで3Dマップを生成することができ、森林所有者へ分かり易く説明することなどに活用されています。実際に、パソコン上でのシミュレーションを拝見しましたが、自分が山の中で、樹木や山の起伏をいろいろな方向から見ている感覚になり、山に入らなくても状況が把握できる便利さを確認しました。しかし、システムや機械の値段は結構高額です。さらに、林業版「地域おこし協力隊」を令和4年度からスタートし、終了後は、林業家として独立する取り組みをしています。令和6年度までに5名が着任し、女性もいます。すでに、独立して起業した方もおられます。

椹原町森林組合での視察研修

他にも、「森林を活用した脱炭素社会の実現」に向けた石油会社などの民間企業との連携協定にも取り組んでいます。第3セクター方式で設立した㈱林業商社「天空の森」は、森林管理と営業窓口を兼ね備えた地域林業をコーディネートする組織を目指しています。

次に、椹原町（ゆすはらちょう）の森林組合を視察しました。ここでは、森林認証ブランドによる地域産材の販路拡大と環境第一の森林経営を実践しています。平成12年10月に団体として国内で初めてFSC認証を取得し森林組合のCoC加工流通過程認証取得工場から工務店等への直販による「顔の見える家づくり」を推進し、また、平成20年4月、町、矢崎総業、森林組合等の出資により第三セクター「ゆすはらペット㈱」を設立し、間伐材、端材等からのペレット製造とエネルギー利用を推進しています。町は、風力発電の売電収入を活用し、間伐材搬出素材4000円／m^3、ペレット原材料4800円／tなどの交付金を交付し、森林資源の循環利用の促進のため支援を行っています。

両町とも山の中にありますが、その森林を有効活用して町を活性化しておりました。規模は違いますが、この視察を共有林の利活用に生かせることは可能か考えていきたいと思いました。

（金井とも子）

防災ミニキャンプ2.0（広域避難所設営訓練等）

役場職員、区長、男の料理教室関係者、村議員の参加で青木村防災ミニキャンプ2.0～公助を考える～が11月21日に行われました。講師は信州大学グリーン社会協創機構地域防災減災センターの神田孝文特任教授でした。

保健センターが避難所という設定で、区長と議員は避難者役になりダンボールベットの組み立て、ダンボールのパーテーション設置、防災用テントの設置などを体験しました。段ボールベットや避難時用マットで実際に横になって寝心地を体験しました。また避難所のレイアウトについてや、避難所設置、そして運営についてのお話をお聞きしました。その中で先生は「訓練は失敗してよいのです。やってみていろいろなことがわかってくるのでそこを確認していき

防災ミニキャンプでの段ボールベッド作り

ましょう。」と言われていました。

その後、男の料理教室の皆さんに用意していただいた、ポリ袋で作るご飯と親子丼の具の防災食をみそ汁と一緒においしくいただきました。避難所では暖かい手作りの料理が気持ちの面でも健康維持にも大切だと感じました。各家庭でも防災食などを時々食べて、防災について日ごろから意識を持つことが大切だとも感じました。

（塩澤敏樹）

青木村・長和町議会議員研修会

10月10日中山道和田宿の見学と立岩和紙に触れる研修を行いました。

和田宿では、「長和町コンシェルジェ」の皆さんに街並みの説明や、歴史の道資料館かわちやそして、和田宿本陣で説明を受けました。

長和町コンシェルジェとは、平成29年に発足し、国内外の観光客をガイドしています。「街の魅力をいろんな人へ伝えたい」という思いを持って、現在は14名の会員の皆さんで活動しています。

和田宿は幕末に大半が火災で焼失しますが、皇女和宮の御下向が控えていたことから、幕府より二千両ほど拝借して街並みを再建させました。今は国史跡に指定されています。

本陣では、板葺き石置き屋根、当時の便所、お風呂また当時用いられていた籠や食器類など貴重な品々を見ることが出来ました。

次に、300年前に農家の農閑期の副業として「紙すき」から始まった、立岩和紙について、町の地域おこし協力隊の方に、紙すきの伝統や紙すき技術を習得しながら立岩和紙を残していく保存活動を行い、和紙について伝えていく活動などについてのお話をお聞きしました。その後実際に紙漉き体験で、うちわづくりをしました。

（塩澤敏樹）

和田宿本陣でのコンシェルジュによる説明

町村議会議長全国大会

令和6年11月13日（水）東京NHKホールにおいて第68回町村議会議長全国大会が開催されました。寺本全国町村議会議長会副会長の開会の言葉に続き国歌斉唱、渡辺議長会会長のあいさつ、大会宣言の朗読がありました。その後、来賓のあいさつがあり石破総理大臣、長浜参議院議長、村上総務大臣のほか閣僚の皆様による祝辞、来賓の紹介後議事に入り要望、決議、特別決議、豪雪地帯対策の推進、実行運動方法などの議事が提案され採択承認の後大会が閉会しました。最後に「地方創生　成功の鍵」と題して中央大学法科大学院教授による講演がありました。

（松澤正登）

議員報酬が28年ぶりに改定されます

昨年12月に開会された令和6年第4回議会定例会において、「青木村議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例」を可決したことにより、村議会議員の報酬月額は5月7日の改選後から右記のとおり改定されることになりました。

議　員	月額	224,000 円（164,000 円）
委員長	月額	231,000 円（170,000 円）
副議長	月額	246,000 円（182,000 円）
議　長	月額	305,000 円（271,000 円）

※カッコ内は改定前の報酬額

平成30年より「青木村議会の在り方研究会」として今後の議会運営について数項目の検討をしてきた内の一課題でもあり、延べ12回にわたり議論をして参りました。

また、令和元年には飯綱町議会や喬木村議会への先進地視察研修として訪問し、それぞれの課題に関した意見を伺いました。同年には住民アンケートを17項目について実施いたしました。報酬については現状のままで良いが52%、上げても良いが28%でした。

近年全国的に議員のなり手不足が問題となっています。最近では燃料、日用品、食品等諸物価の高騰もあり、また、企業等のベースアップ、公務員では人事院勧告から給料も上昇傾向にあります。議会議員についてもそれぞれが生活を抱えたうえで活動しています。平成8年に現行の16万4000円となり以降28年間据え置きとなっており、この間2度の報酬審議会が開催されましたが改定は見送られてきました。当議会も令和7年4月には改選を迎えます。改選にあたり女性や若い方にも参加を望みます。

青木村議会より
住民懇談会の開催のご案内

日頃、議会活動にご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

青木村議会では、住民の皆様に日頃の議会の活動状況を知って頂くため、また、議会活動や村政に対するご意見やご提言を伺い、議会活動に活かすため住民懇談会を下記のとおり開催いたしますので、お誘い合わせのうえお気軽にお出かけください。

■ 開催スケジュール

※2時間程度の懇談会ですので、ご都合の良い会場へお越しください。

開催日	時間	会場	主な対象住民地区	担当議員（○責任者）
2月15日(土)	午後1時30分～	文化会館	入田区・中村区・中挾区	○平林、松澤、塩澤
2月15日(土)	午後6時30分～	下奈良本 ふれあいセンター滝の館	下奈良本区・入奈良本区 沓掛区	○宮下、松澤
2月21日(金)	午後6時30分～	当郷公民館	当郷区	○居鶴、坂井、松本
2月21日(金)	午後7時～	アイリスの館	村松区	○沓掛、宮入
2月21日(金)	午後7時～	夫神公民館	夫神区・細谷区	○松澤、金井
2月22日(土)	午後6時30分～	殿戸区コミュニティセンター	殿戸区	○坂井、居鶴
2月25日(火)	午後7時～	義民の郷ふれあいセンター	青木区	○金井、沓掛

懇談内容

（1）議会報告について
（2）情報通信ネットワーク等高機能化促進事業の加入促進について
（3）議員のなり手不足について
（4）皆さんから議会・議会報に望むこと

■ 主催：青木村議会　■ お問い合わせ：青木村議会事務局（青木村総務企画課）　TEL・情 49-0111（代）

住民の声

青木村議会を見学して

青 木 中 学 校

12月10日、青木中学校3年生は社会科の公民の授業のひとつとして、第4回青木村議会定例会一般質問の様子を見学させていただきました。一般質問では、アダプト制度のことや防犯対策、災害対策や人権教育についての質問がありました。生徒達にとって、通学路での危険箇所の把握や対策、また災害対策や、学校で学習している人権教育についてなど身近なこともあり、興味をもって聞く姿がありました。ここに、感想をまとめたいと思います。

●今日は村役場へ行き、村の議会を見てきました。私は今までに何度か役場へは行ったことがありましたが、初めて議場に入り、「こんな場所が青木村にあったの?!」と、少し驚きました。私は、母の影響で、裁判は見に行ったことがありましたが、そこで味わった少しピリッとした緊張感のある空気で、青木村は議会があって成り立っているのだと、よくよく感じました。また、今回どのように話し合いをするのか見させてもらいましたが、意外と身近で、私たちも深く関わっている内容もありました！バスのドライブレコーダーについても、丁寧に話し合いが行われていて、すごいなと思ったし、ありがたいなと思いました。やはり、実際に行ってみることで学べることが多くあり、とても有意義な時間となったと思います。

●話の内容が教育や道路など身近なことを話していて、座っている人や議員さんの意見がわかったので良かったです。私たちが幸せに暮らしているのは、こういう話し合いがあるからだと思いました。

●難しい内容でしたが、この話し合いで青木村のことがいろいろ決まっていくんだなと思いました。身近な話が多く意外でした。青木村をより良くするためにたくさんの話題があって、勉強になりました。青木村のいろいろな問題を知ることができて良かったけど、難しかったです。

●村役場の中や、村の議会がどのように行われているのか、全体像を知ることができて本当に良かった。小中学校に関わりのある内容があって、聞いていて、おもしろかったし、通学路のことやバスのドライブレコーダーなどの防犯カメラのことなど「なるほどなあ」と思うこともたくさんありました。聞いていて、難しい言葉もたくさんあったけど、とてもいい経験になりました。

●村長だけでなく、役場の総務企画課長や教育長等いろいろな人が発言することがわかって驚きました。青木村の知らなかったことも知ることができました。また、1つの項目について、何度も質問して、たくさん議論することがわかりました。

●議員の人たちは村民の安全や、豊かな生活のために話し合っていて、「人のために発言」をしていてすごいなあと思いました。そして、村のことをもっと知ることができて、内容は難しかったけれど、青木村はすごいなと思いました。

最後に担当した社会科の教員より

●青木村議会を公民の学習の一環で訪れました。今の中学３年生は、コロナ禍で小学６年生の時の修学旅行へ行くことができなかったという話も聞きました。国会議事堂などの見学はできなかったそうです。なので、授業をしていても、国会の歴史やしくみを考えるのは、どこか遠い世界のことを学習しているような感じがしていました。私にとっても議会を訪問することは、初めての経験でした。「民主主義の学校」と言われる地方自治では、国政を学ぶ上でも共通点が多く、政治のしくみを理解するには身近な存在です。地方議会を見学した生徒の意見で最も多かったのは、身近なことや、知っていること、授業や学校生活で学んだことが、実際にあの場で議論されていることへの驚きや喜びです。テレビや新聞ではなかなか伝わらない生の議論の様子、議場の雰囲気を体験することができ、生徒にとって貴重な経験になったと感じます。

編集後記

現議員も令和7年5月6日に任期満了となり改選となります。4年前の改選も立候補者10名であり無投票でした。

全国的に議員のなり手不足が問題となっています。主な原因の1つとして企業等の定年延長により70歳近くまで就労できるようになった事が考えられます。県内でも長野市、松本市、上田市を除く74市町村では同じ悩みを抱えていることでしょう。

これまでの青木村議会は高齢の男性が主でしたが、住みやすい青木村を築いていくうえで若い方や女性の方の参加により幅広い意見の中で未来のある良い村づくりに参加いただきたいです。 （T･M）

■ 発行／青木村議会
■ 編集／議会報編集委員会
議会に関するお問い合わせは▶議会事務局 TEL.0268-49-0111 までお寄せください。
委員長／塩澤 敏樹　副委員長／宮入 隆通
委員／松本 淳英・平林 幸一・金井 とも子・宮下 壽章
この印刷物は、植物性インキおよび再生紙を使用しています。
見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。